

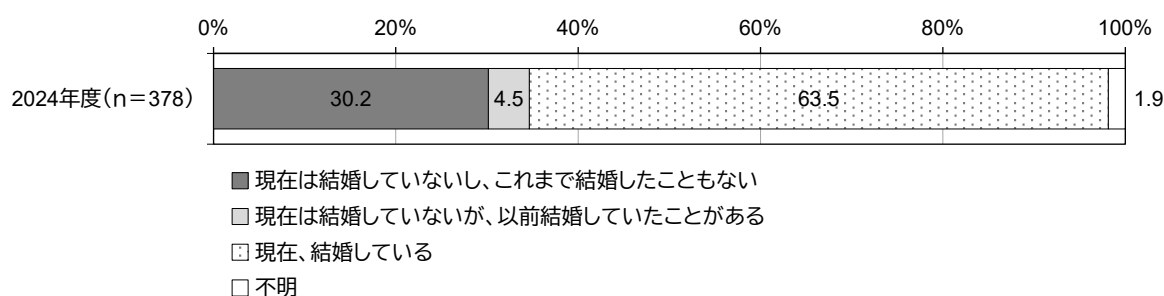
16. 現在の婚姻状況

問 16 あなたは、現在、結婚していますか。（1つ選択）〈50歳未満限定〉

●「現在、結婚している」が6割以上、次いで「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」が3割以上

「現在、結婚している」（63.5%）が6割以上で最も高く、次いで「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」（30.2%）が3割以上となっています。

「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」と「現在は結婚していないが、以前結婚していたことがある」（4.5%）の合計値『現在は結婚していない』（34.7%）は3割以上となっています。

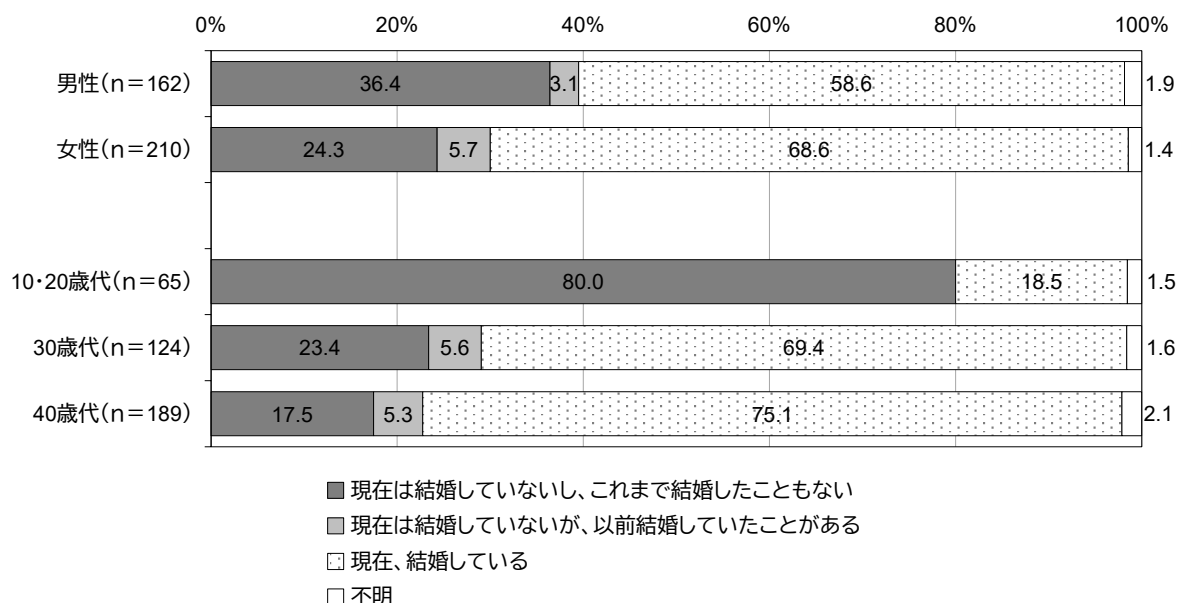


現在、結婚しているか（1つ選択）

●10・20歳代を除き、「現在、結婚している」が最も高い

属性別に見ると、10・20歳代を除き、全体傾向と同様に「現在、結婚している」が最も高くなっています。

10・20歳代は「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」が最も高くなっています。



現在、結婚しているか（属性別）

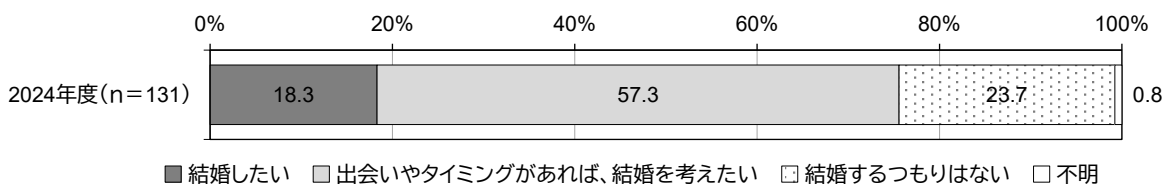
17. 結婚への意向

問 17 結婚について、あなたの気持ちをお聞かせください。（1つ選択）〈50歳未満限定・現在未婚者限定〉

- 「出会うタイミングがあれば、結婚を考えたい」が約6割、次いで「結婚するつもりはない」「結婚したい」がそれぞれ約2割
- 合計値『結婚したい・考えたい』は7割以上

先の問題 16 で「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」または「現在は結婚していないが、以前結婚していたことがある」と回答した 131 人に結婚についての気持ちを聞いたところ、「出会うタイミングがあれば、結婚を考えたい」（57.3%）が約6割で最も高く、次いで「結婚するつもりはない」（23.7%）が2割以上、「結婚したい」（18.3%）が約2割となっています。

「結婚したい」「出会うタイミングがあれば、結婚を考えたい」の合計値『結婚したい・考えたい』（75.6%）は7割以上となっています。

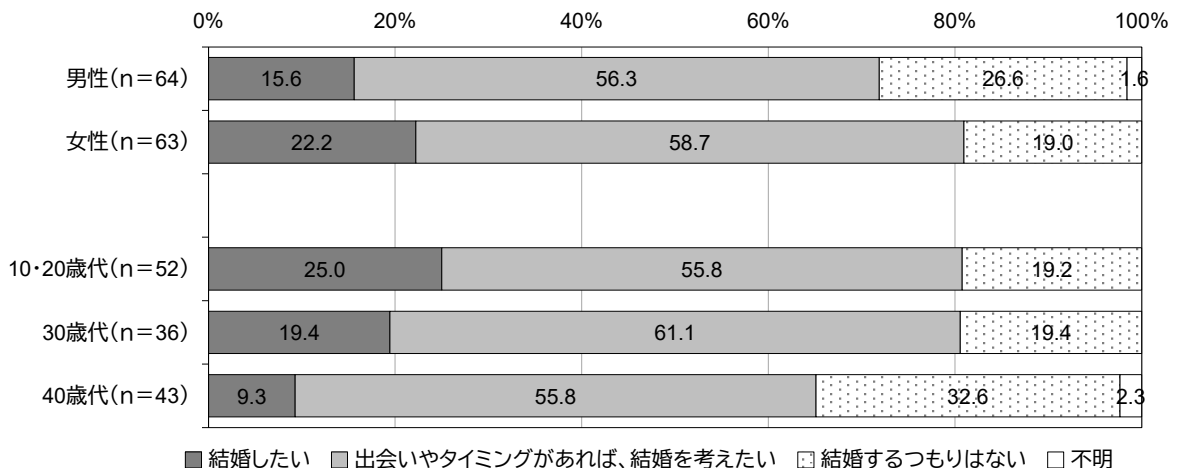


結婚についての気持ち（1つ選択）

- 合計値『結婚したい・考えたい』は女性が男性より若干高い
- 「結婚したい」は若い年代ほど高い

属性別に見ると、性別では大きな差は見られず、男女とも「出会うタイミングがあれば、結婚を考えたい」（男性 56.3%、女性 58.7%）が最も高くなっていますが、合計値『結婚したい・考えたい』は女性（80.9%）が男性（71.9%）より 9.0 ポイント高くなっています。

また、年代別では、若い年代ほど「結婚したい」が高くなっています。



結婚についての気持ち（属性別）

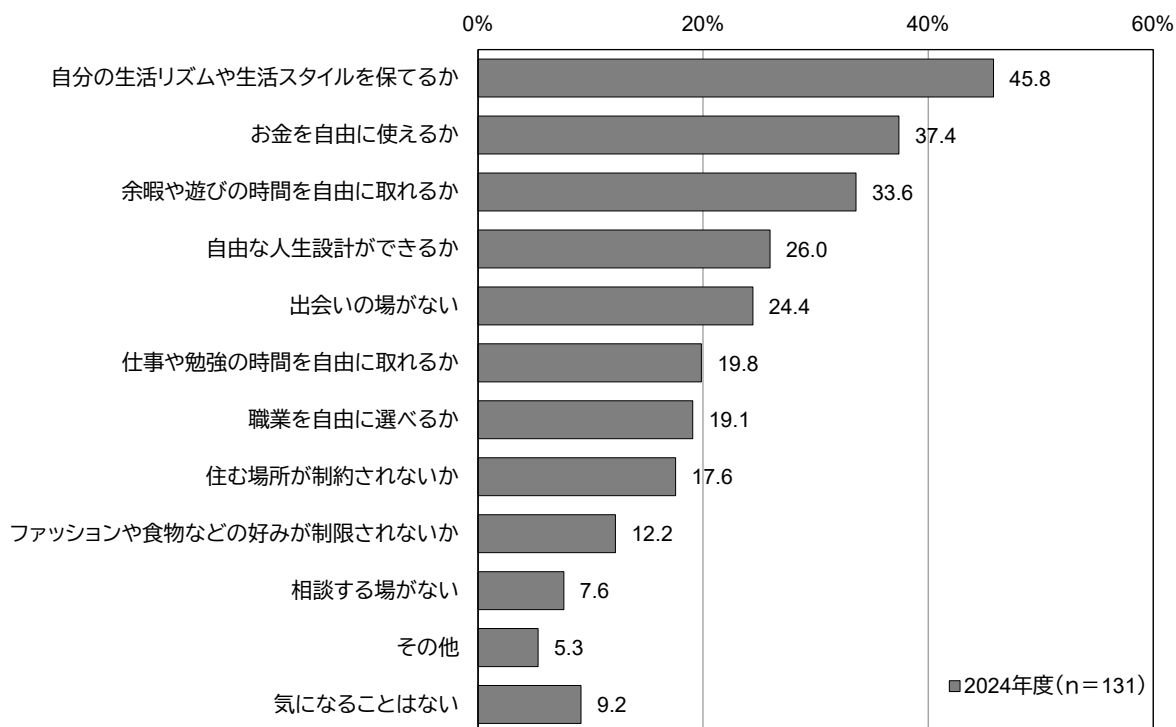
18. 結婚を考えたとき気になること

問 18 あなたが結婚について考えたとき、どのようなことが気になりますか。（すべて選択）〈50歳未満限定・現在未婚者限定〉

●「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」が4割以上、次いで「お金を自由に使えるか」が約4割

先の間 16 で「現在は結婚していないし、これまで結婚したこともない」または「現在は結婚していないが、以前結婚していたことがある」と回答した 131 人に結婚について考えたときに気になることを聞いたところ、「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(45.8%) が4割以上で最も高く、次いで「お金を自由に使えるか」(37.4%) が約4割となっています。

その他 (5.3%) の記述には、仕事の継続、親との同居、子どもに関する内容などが見られます。

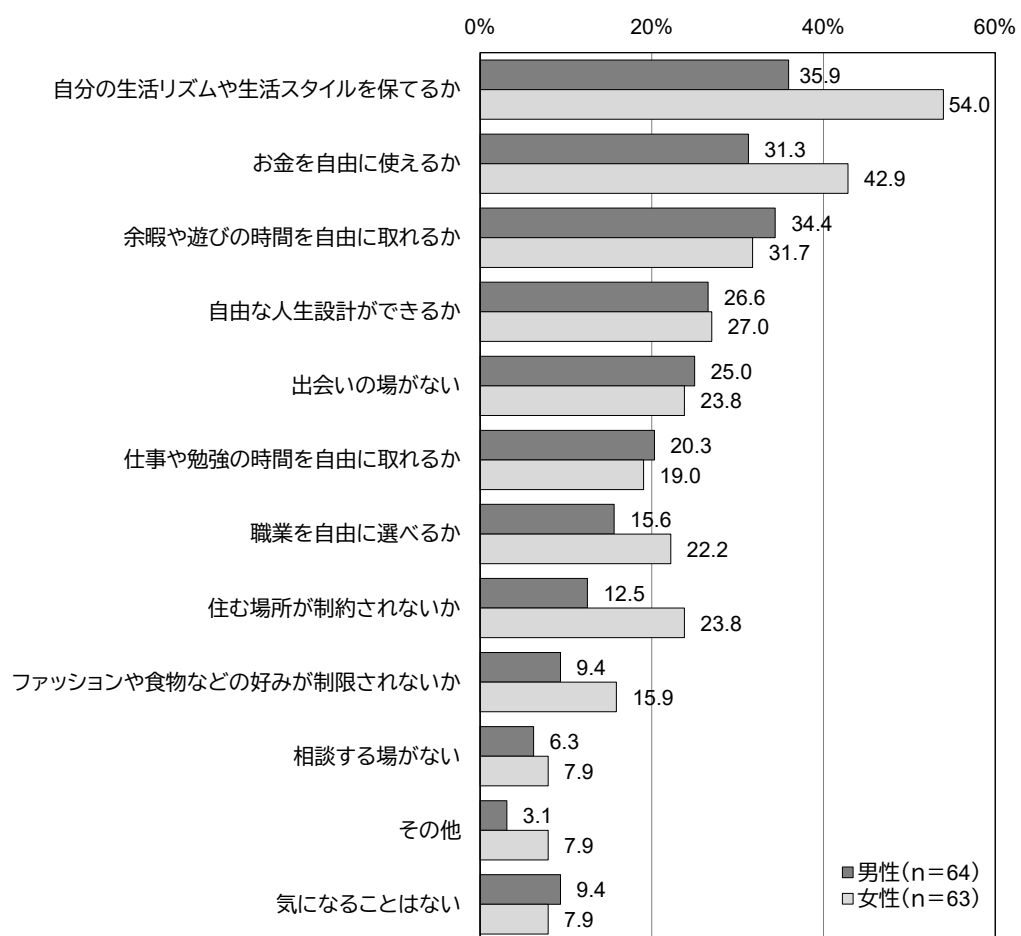


結婚について考えたときに気になること（すべて選択）

- 男性は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」「お金を自由に使えるか」の3項目がそれぞれ3割以上で同程度に高い
- 女性は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」が5割以上で最も高い
- 男女差は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」で最も大きく、女性が高い

性別で見ると、男性は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(35.9%)、「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」(34.4%)、「お金を自由に使えるか」(31.3%)の3項目が3割以上で同程度に高く、女性は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(54.0%)が5割以上で最も高くなっています。

男女差は「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」で最も大きく、女性が男性より18.1ポイント高くなっています。



結婚について考えたときに気になること (性別)

●すべての年代で「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」が最も高い

年代別では、いずれの年代も「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」が最も高く、10・20歳代は「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」(44.2%)も同値で高くなっています。次いで、10・20歳代、40歳代は「お金を自由に使えるか」(10・20歳代 38.5%、40歳代 44.2%)、30歳代は「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」「出会いの場がない」(33.3%で同値)となっています。

結婚について考えたときに気になること (年代別)

(%)	10・20歳代	30歳代	40歳代
n	52	36	43
自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか	44.2	44.4	48.8
お金を自由に使えるか	38.5	27.8	44.2
余暇や遊びの時間を自由に取れるか	44.2	33.3	20.9
自由な人生設計ができるか	28.8	30.6	18.6
出会いの場がない	21.2	33.3	20.9
仕事や勉強の時間を自由に取れるか	21.2	19.4	18.6
職業を自由に選べるか	23.1	16.7	16.3
住む場所が制約されないか	21.2	19.4	11.6
ファッションや食物などの好み制限されないか	13.5	16.7	7.0
相談する場がない	3.8	11.1	9.3
その他	1.9	11.1	4.7
気になることはない	7.7	11.1	9.3

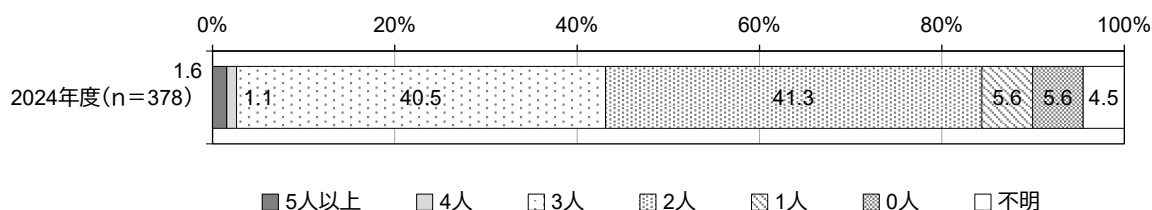
※全体値が高い順に表示。濃色網掛け表示は最も高い値、淡色網掛け表示は次いで高い値

19. 理想的な子ども数

問 19 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。（1つ選択）〈50歳未満限定〉

●「2人」「3人」がそれぞれ4割以上で同程度に高い

「2人」(41.3%)、「3人」(40.5%)の2項目が4割以上で同程度に高く、合計値『2～3人』(81.8%)は8割以上となっています。



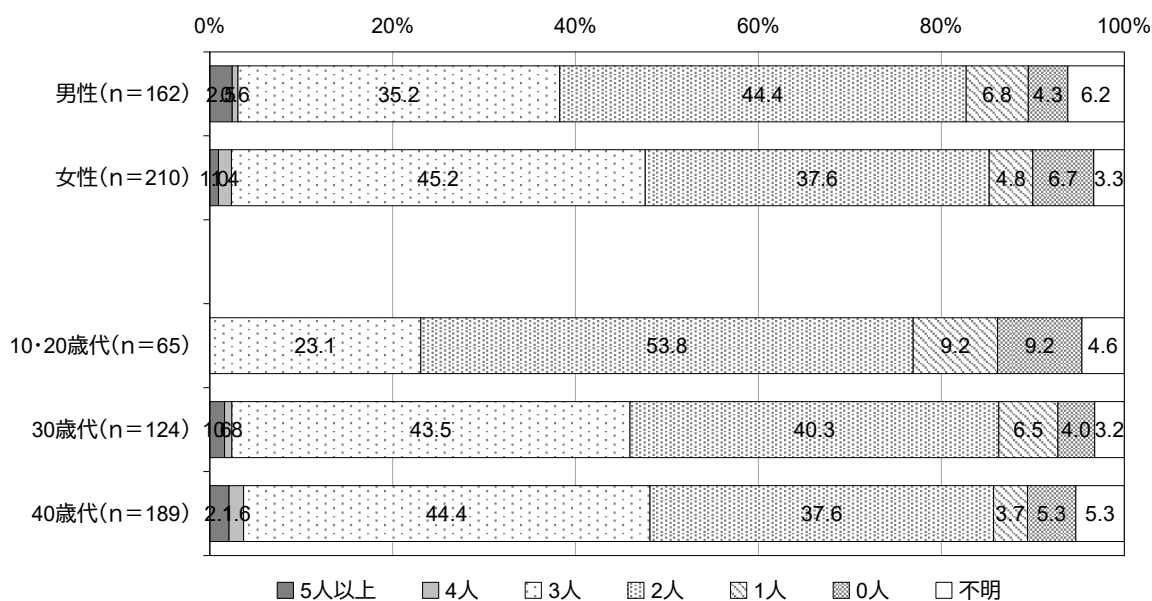
理想的な子どもの数（1つ選択）

●男女、各年代とも「2人」または「3人」が最も高い

属性別に見ると、いずれの性別、年代とも「2人」または「3人」が最も高くなっています。

性別で見ると、男性は「2人」(44.4%)、女性は「3人」(45.2%)が最も高くなっています。

年代別で見ると、10・20歳代は「2人」、30歳代、40歳代は「3人」(30歳代43.5%、40歳代44.4%)が最も高くなっています。



理想的な子どもの数（属性別）

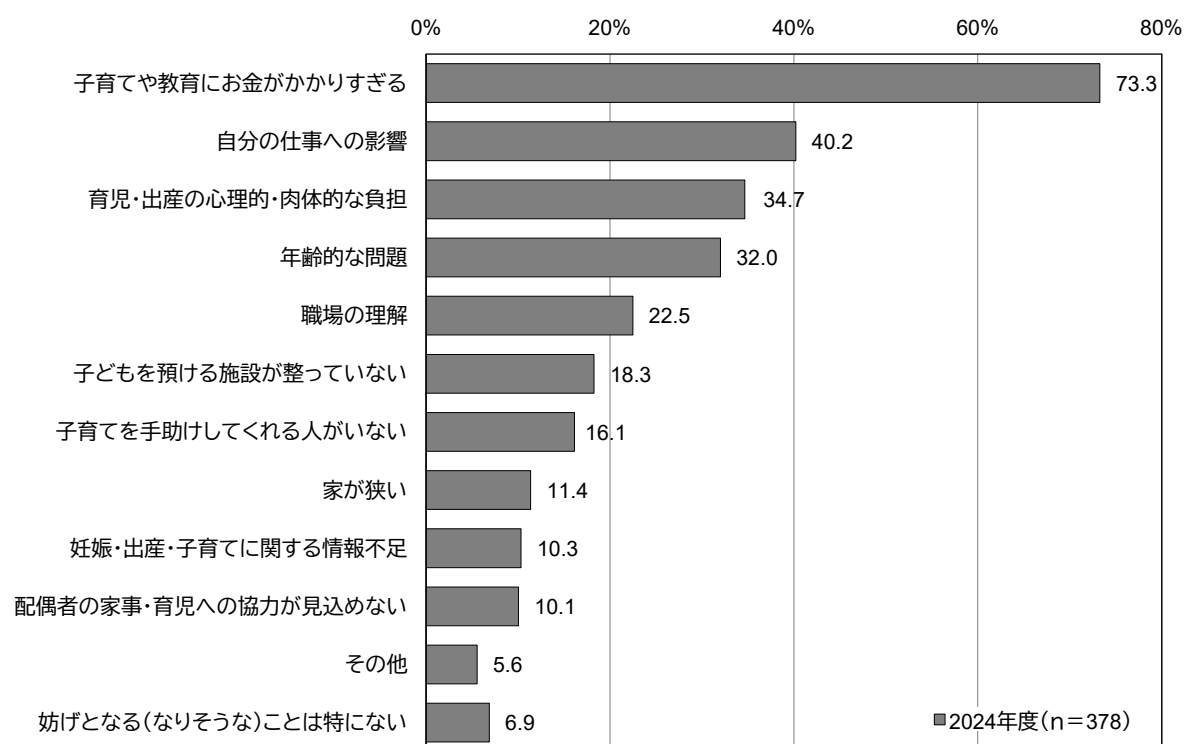
20. 理想的な子ども数の実現への妨げ

問 20 あなたが理想的な子ども数の実現するために妨げとなる（なりそうな）ことは何ですか。（すべて選択）〈50歳未満限定〉

●「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が7割以上、次いで「自分の仕事への影響」が4割以上

「子育てや教育にお金がかかりすぎる」（73.3%）が7割以上で特に高く、次いで「自分の仕事への影響」（40.2%）が4割以上となっています。

その他（5.3%）の記述には、産科・産院の不足に関する内容が最も多く、給与・収入に関する内容も複数見られます。

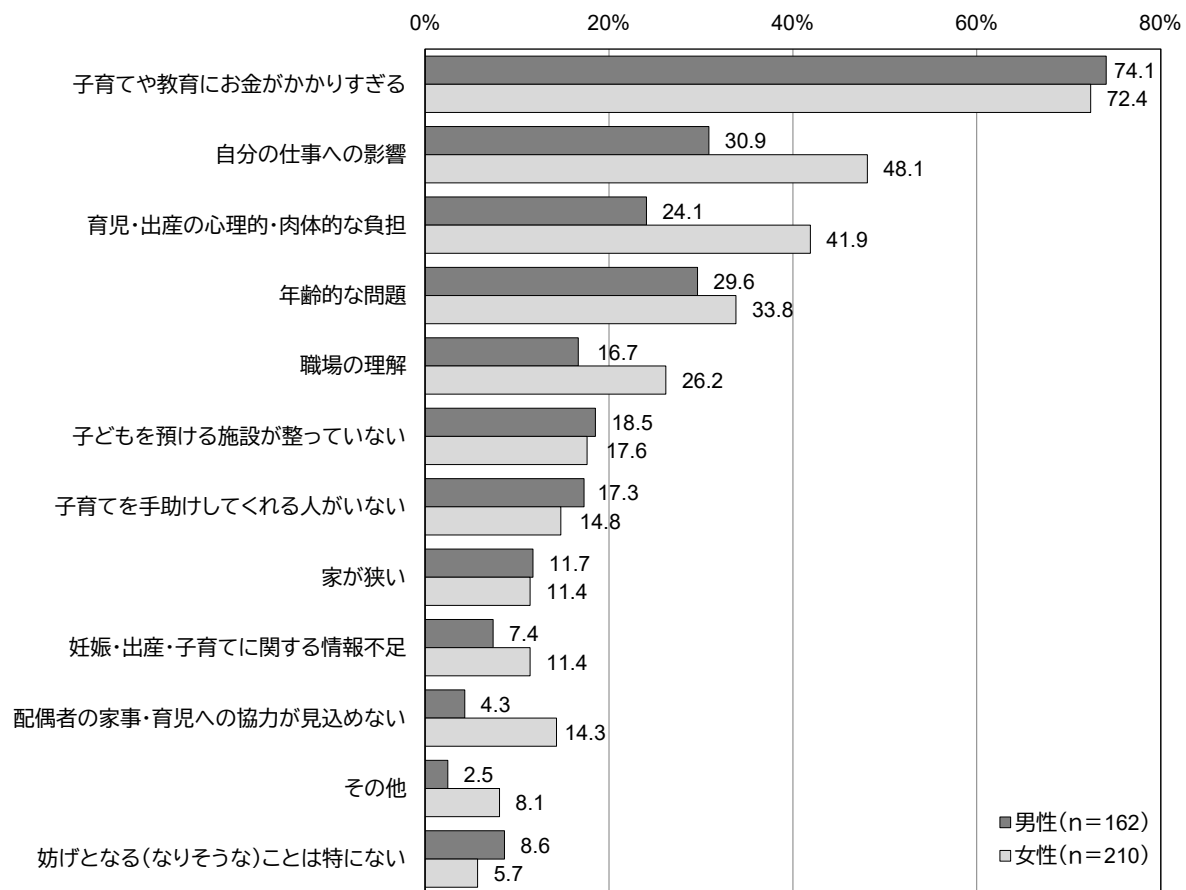


理想的な子ども数の実現するために妨げとなる（なりそうな）こと（すべて選択）

- 男女とも「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が7割以上で最も高い
- 男女差は「自分の仕事への影響」「育児・出産の心理的・肉体的な負担」で大きく、いずれも女性が高い

性別で見ると、男女とも「子育てや教育にお金がかかりすぎる」(男性 74.1%、女性 72.4%) が7割以上で最も高く、次いで男性は「自分の仕事への影響」(30.9%)、「年齢的な問題」(29.6%) が約3割で同程度、女性は「自分の仕事への影響」(48.1%) が約5割となっています。

男女差は「自分の仕事への影響」「育児・出産の心理的・肉体的な負担」で大きく、いずれも女性(それぞれ 48.1%、41.9%) が男性(それぞれ 30.9%、24.1%) より高くなっており、「自分の仕事への影響」は 17.2 ポイント、「育児・出産の心理的・肉体的な負担」(男性 24.1%、女性 41.9%) は 17.8 ポイント、それぞれ女性が高くなっています。



理想的な子どもの数を実現するために妨げとなる(なりそうな)こと(性別)

●すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も高い

年代別で見ると、すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も高く、次いで10・20歳代、30歳代は「自分の仕事への影響」（10・20歳代43.1%、30歳代は「育児・出産の心理的・肉体的な負担」と同値で42.7%）、40歳代は「年齢的な問題」（43.9%）となっています。

年代差は「年齢的な問題」で最も大きく、最も高い40歳代（43.9%）と最も低い10・20歳代（6.2%）では37.7ポイントの差が見られます。

理想的な子どもの数を実現するために妨げとなる（なりそうな）こと（年代別）

(%)	10・20歳代	30歳代	40歳代
n	65	124	188
子育てや教育にお金がかかりすぎる	69.2	75.8	73.0
自分の仕事への影響	43.1	42.7	37.6
育児・出産の心理的・肉体的な負担	33.8	42.7	29.6
年齢的な問題	6.2	27.4	43.9
職場の理解	21.5	20.2	24.3
子どもを預ける施設が整っていない	10.8	21.0	19.0
子育てを手助けしてくれる人がいない	12.3	16.9	16.9
家が狭い	10.8	14.5	9.5
妊娠・出産・子育てに関する情報不足	13.8	11.3	8.5
配偶者の家事・育児への協力が見込めない	3.1	12.9	10.6
その他	4.6	6.5	5.3
妨げとなる（なりそうな）ことは特いない	9.2	8.9	4.8

※全体値が高い順に表示。濃色網掛け表示は最も高い値、淡色網掛け表示は次いで高い値